

甘くて締まったタマネギをつくる

栽培のポイント

●定植から越冬までに、いかに根を作るか！
初期の根量不足は、春からの玉の肥大を遅らせます。ネギ類は根がデリケートです。根の張りやすい土作りと生育初期の積極的な発根促進が、大きな玉を作ることにつながります。

●葉折れが早いと玉は締まらない！
悪い生育：①苗質が悪く、活着不良→根張り不良→冬の乾燥で根が傷む

②生育後半に葉折れ

玉が完熟しない前に葉が折れると、締まりの悪い腐りやすいタマネギになります。収穫前に葉の水分・養分が玉の方に取られて太りが完了し、葉が折れるというのが本来の生育です。

●タマネギは、リン酸が好き！

元肥のリン酸は毛細根を増やし、玉の肥大初期のリン酸は展葉を促し、肥大後半のリン酸は、甘味をのせ、締まった腐りにくい玉を作ります。



節が詰まった、締まった姿

施肥提案（1 a = 30 坪）

資材名	元肥	追肥① (2月下旬～3月上旬)	追肥② (4月下旬～倒伏前)
MリンPK	3～5 kg	—	3～5 kg
バクヤーゼK	30 kg	—	—
NK化成	6 kg	3 kg	—

※定植直後の根量増加のためには
Pフォスタ 1000 倍液の葉面散布

肥大を促進する

リン酸を効かせて、葉に持っている
養分を玉に送る

※春の長雨時は、MリンPK 3～5 kg を追肥

タマネギ作りのQ&A

Q 夏になると腐りが多く出るけど対策は？

タマネギが腐る背景に、春先の天候（長雨など）の影響を受け、水分とチッ素成分を過剰に吸収し、そのチッ素分が芯に残るため腐りやすくなったと考えられます。長雨の前にMリンPKの追肥をしておく対策になります。



Q 肥料をやったのに、玉太りがよくなかった。なぜ？

初期生育の時に根張りが悪かったことが考えられます。元肥にMリンPKの利用と良質の苗の準備と地温が12℃以上確保できる時に定植して下さい。また、土に問題を抱えているとやはり根は張りにくくなりますので、正しい土作りも行ってください。